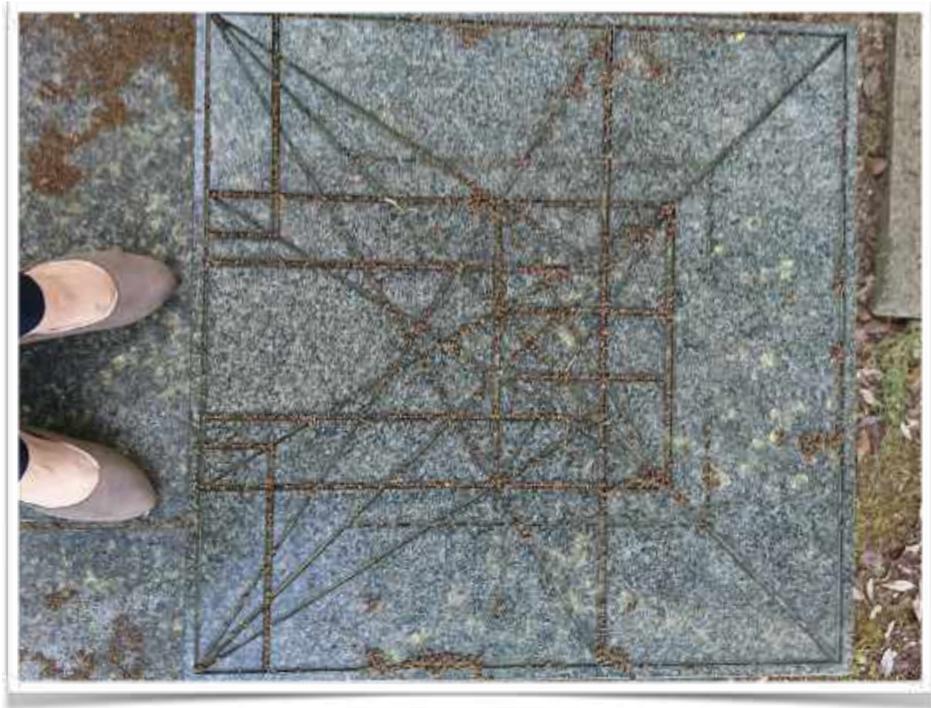


じわじわスポット

岐阜県美術館をそぞろ歩く 篇



2020年10月某日

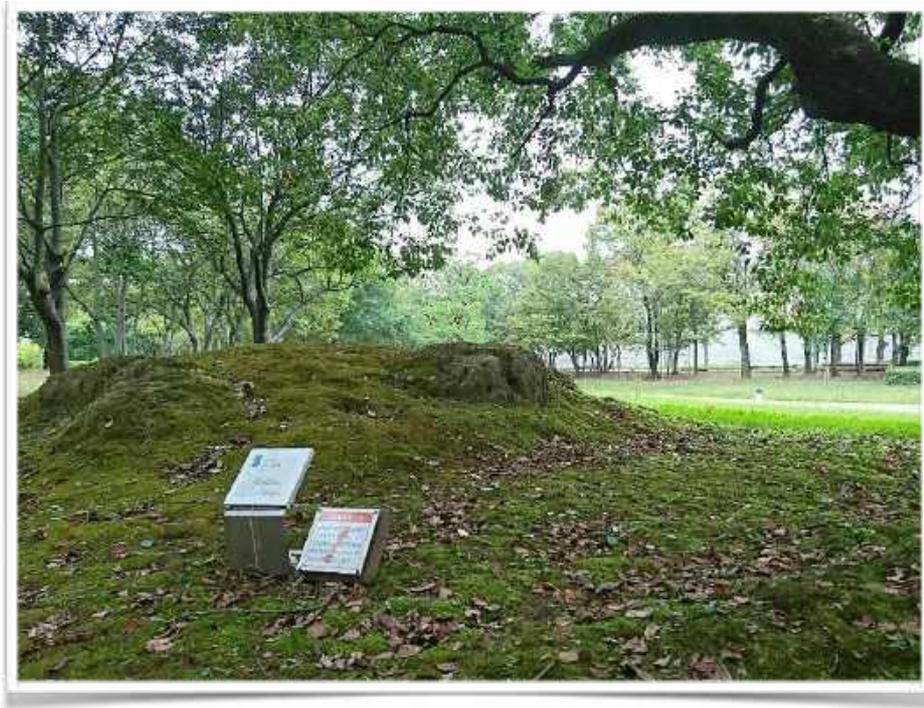
岐阜県美術館

北緯35度24分5.69秒

東経136度43分50.13秒



正門から敷地内へと。石畳が引かれている園路を右にとると建物へと向かう。ここはあえて左の庭園部分へと足を進める。小川も流れている。なかなか庭園としても心地が良い空間だと個人的には気に入っていたりする。幸い人も少ないし、ここはひとつ勝利のビーナスに丁寧にご挨拶。



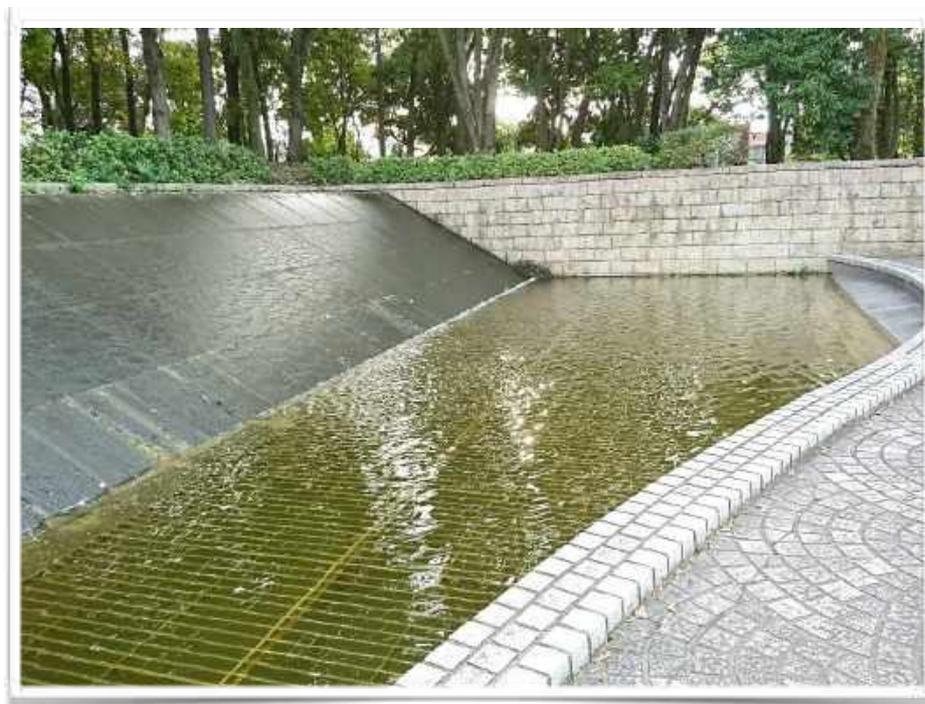
森の小径をそのまま進んでゆくことにする。右手にこんもりとした丘が（よく見ると）ある。滑りやすいので注意書きがある、ということは登ってもいいのだろうか。勇気はない。作品名『月に吠える丘』とのこと。いつか自分も叫んでみたいが、そんな機会がやって来るだろうか。



更に歩みをを進める。その奥にあったのは『立つ人一月見台』。こちらの方が受け入れ感がある為、ちょっと立ってみた。足もとのぐらぐら感が楽しめる。月と対峙するには丹田を引き締めねばということなのか。おそらく違う。でも気を抜いては危ない。石の風合いもなかなかである。



小径をそれ庭木に目をやる。一本だけ説明書きのついている木があった。ここの空気は十分に綺麗そうだが、きっとこの下の空気がいちばん美味しいはずなので深呼吸。周りに誰もいなかったから、マスクをはずして大きく、深呼吸。ちょっといい気分になった。



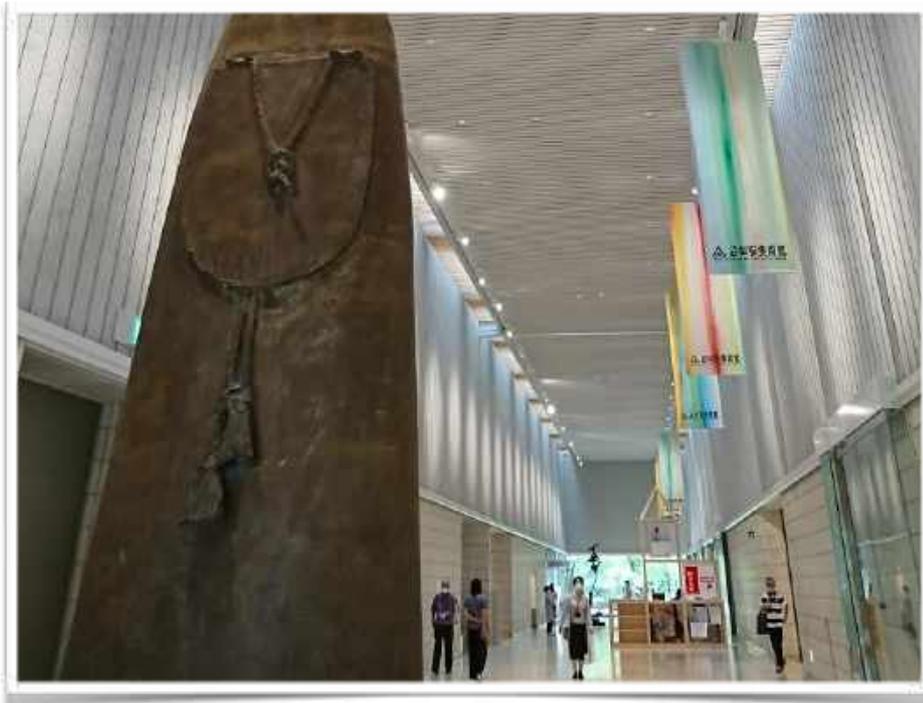
先にある北側の門を一度出してみた。そこが小川の源流のようになっている。流れる型の噴水？とでもいうのか、よく見ると鯉も泳いでいた。が、よ〜く見ないとなかなか鯉とは出会えないと思う。出会えた人はラッキーと言うことでどうだろうか。白いデカイのが主だろう。



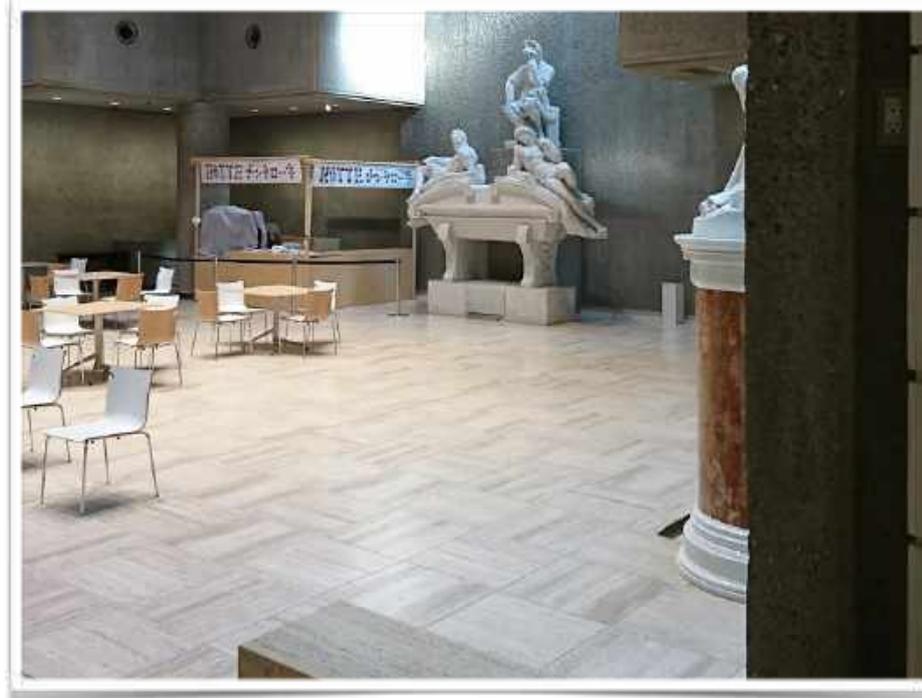
再び館内の方へ足を向ける。門扉の裏手側、園路の左側に休憩スポットを発見。恵那石の石垣がさりげなくエリア分けをしている。水飲み場もあるし、立派な御影石のベンチも設置されていた。でもきっと夏は要・注意だ。熱っ!! となりかねない。先ずはちょこっと触ってから座ろう。



もうすぐ建物に入るといところで彼女と遭遇。マイヨールさんの作品らしい。なんか悩んでるよねと言うと、そんなネガティブな!と諭された記憶がある。あなたにはどう見えるだろうか。口ダンだって頭に手を当てさせたのは、このポーズが一番考えてる風、だからではないのか。



ようやく美術館内に入る。コンクリート好きな自分には、この建物の壁はとても魅力的。随所に施された小技も見応えがあり、何より天井からの光が美しい。あと時々目があったりする。そう、誰かがこちらをみていたりするのだ。見上げてごらん きっと目が合うから。うふふふふふ。



多目的ホールで休憩。ホール内にはイスやテーブルも置かれ、珈琲の自販機もあった。先にカップを設置してね！とちゃんと注意書きがあったのに、すっかり読み逃し、気がついた時には受け皿へと珈琲は抽出されていた。残念。そうそう、この壁にはフクロウさんが住んでいます！

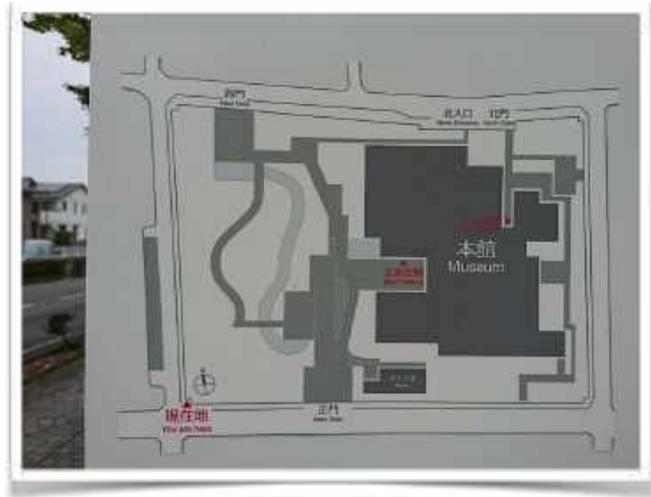


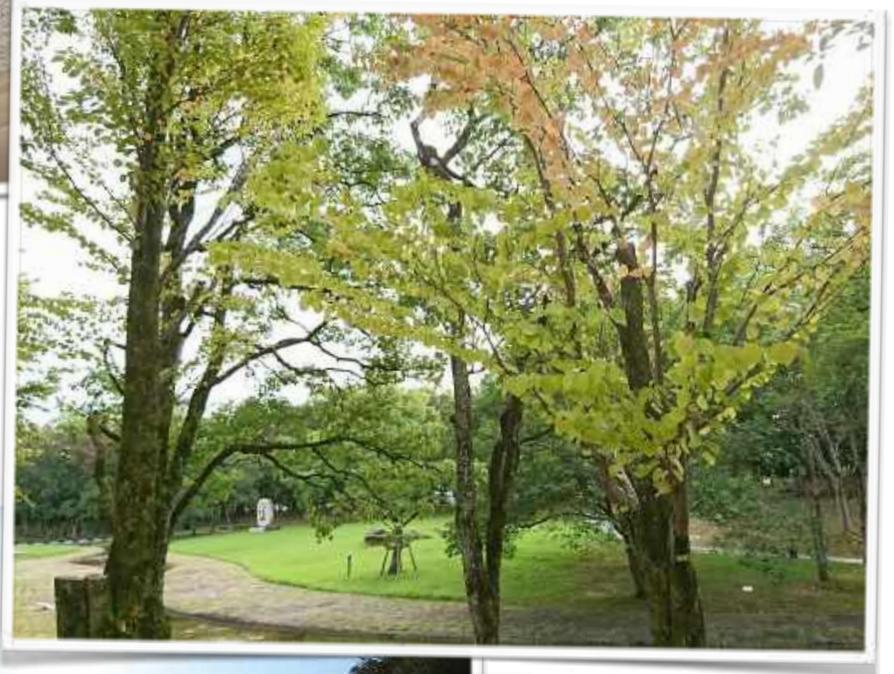
館内も満喫したので帰路につくことにしたが、南ゲートの横にある建物が気になり寄ってみた。アトリエ棟ということだった。建物の入り口前には作品も置かれていた。目がとまった棟の住人さんも紹介。次回来た時も住んでいるだろうか。確認に行ってみるとする。



正門を出た先、向かいの図書館との間の通りがこれまた良い。石畳に装飾性の高いガス燈も立っている。なんだか異国情緒でさえある。そこに植わっていた、が、切られた、街路樹のコブシの根っこ。この穴はどこかに繋がっているはずだ。どこだろう、でも覗くのはちょっと怖い。

写真もろもろ



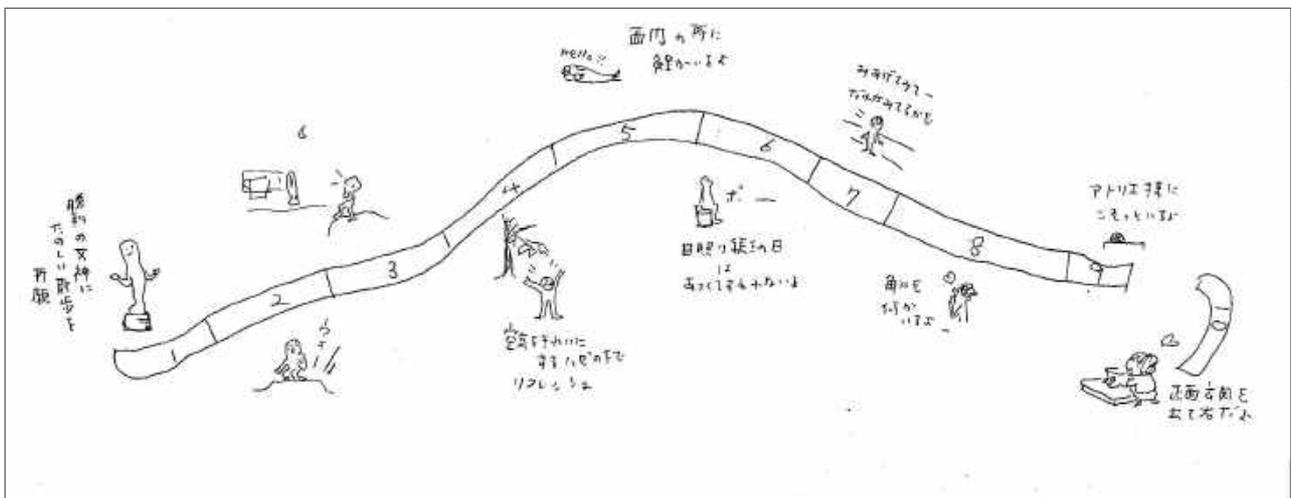


お わ り

2020.11.3

アートしながらーDAY記念

特別限定配布 ガイド



完

文責 県美帖丸